

# 事務事業評価シート

(平成 23 年度実施事業)

事務事業名	資源ごみ分別作業所管理運営事業			事業コード	0295
所属コード	05710	課等名	リサイクルセンター	係名	
所長名	上野 雅弘	担当者名	上野 雅弘	内線番号	685-2151
評価分類	<input type="checkbox"/> 一般	<input checked="" type="checkbox"/> 公の施設	<input type="checkbox"/> 大規模公共事業	<input type="checkbox"/> 補助金	<input type="checkbox"/> 内部管理

## 1 事務事業の基本情報

### (1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	環境との共生	コード	6	
	施策	地球環境への貢献	コード	3	
	基本事業	廃棄物の発生抑制・再使用・再生利用	コード	2	
予算費目名	一般会計 4 款 2 項 3 目 資源ごみ分別作業所管理運営事業				
特記事項					
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	4 年度
根拠法令等	容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律第 1 条及び第 6 条				

### (2) 事務事業の概要

分別収集された資源ごみ（ペットボトル・びん・缶）を分別し、再商品化基準適合物として契約業者へ出荷する。

### (3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

容器リサイクル法施行を契機に平成 4 年 11 月からびん・缶を、平成 9 年 10 月からペットボトルの分別を開始した。

### (4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

事業開始当初は、各自治体の処理が殆んどであったが、最近では民間でも同様の事業を行っている。一般家庭ごみについては現状の事業として行うべきであるが、分別の多様化の傾向にあり処理作業の効率化を図る必要がある。

## 2 事務事業の実施状況 (Do)

### (1) 対象（誰が、何が対象か）

旧盛岡市域から搬入されたびん・缶及びペットボトルの資源ごみ

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 見込み
A ペットボトル搬入量	t	722	760	760	782	782
B びん・缶搬入量	t	2,565	2,672	2,672	2,779	2,779
C 施設の年間運転時間	時間	1,431	1,377	1,377	1,385	1,385

(3) 23年度に実施した主な活動・手順

対象の資源ごみを分別し、減容梱包のうえ搬出した。

- ①びん…色ごとに分別し再生工場へ搬出
- ②缶…アルミとスチールに分別し減容梱包して再生工場へ搬出
- ③ペットボトル…減容梱包後再生工場へ搬出

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A ペットボトル搬出量	t	727	735	735	737	737
B びん・缶搬出量	t	2,267	2,517	2,517	2,823	2,823
C 施設の運転時間	時間	1,431	1,377	1,377	1,385	1,385

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

資源ごみを分別して再生工場へ搬出することにより、ごみの減量とリサイクルを行うもので現状維持する必要がある。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A ペットボトル搬出量	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input checked="" type="checkbox"/> 維持	t	727	735	735	737	737
B びん・缶搬出量	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input checked="" type="checkbox"/> 維持	t	2,267	2,517	2,517	2,823	2,823
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

## (7) 事業費

項目	財源内訳	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	33,430	34,327	34,327	32,530
	⑤その他( )	千円	11,211	10,356	10,356	11,049
	A 小計 ①～⑤	千円	44,641	44,683	44,683	43,579
人件費	⑥延べ業務時間数	時間				
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	0	0	0	0
計	トータルコスト A+B	千円	44,641	44,683	44,683	43,579
備考						

## 3 事務事業の評価 (See) . . . . .

### (1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

#### ① 施策体系との整合性

資源循環型社会に寄与する自治体の事業として定着している。

#### ② 市の関与の妥当性

法定事務であり妥当である。

#### ③ 対象の妥当性

法定事務であり妥当である。

#### ④ 廃止・休止の影響

資源循環社会型事業としては不可欠であり、休止した場合は焼却処分や埋立地への負荷が増大する。

### (2) 有効性評価 (成果の向上余地)

現施設の設備では向上の余地はないが、設備の改善により再商品化率を高めることは可能である。

### (3) 公平性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

旧盛岡市域の全市民が対象として、廃棄物を受入れており公平である。

(4) 効率性評価

施設の老朽化に伴い事業費の削減は、処理効率の低下を余儀なくされるので難しい。  
また、作業は一連作業の配置で分別を行っており削減はできない。

**4 事務事業の改革案 (Plan) . . . . .**

(1) 改革改善の方向性

現状維持の事業であるが、施設の老朽化により更新が必要である。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

廃棄物処理施設整備計画の策定を進め、施設の更新を図るべきである。

**5 課長意見 . . . . .**

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

廃棄物処理施設整備計画の策定の中で、施設の更新や処理方法等について検討する必要がある。